

BAHAMAS

PHOTO & TEXT OCHI TAKAJI



12年間通い続けた バハマ・ドルフィンサイト

イルカたちとの遭遇条件だけ考えれば、

今、自分にとっては、バハマのドルフィンサイトが世界中で一番のベストポイントだ。

だからこれだけ長い間、この海に通い続けている。

その年月の間に起こった環境の変化や、自分の撮影スタイルについて、今回は語ってみたいと思う。

DOLPHIN SITE



バハマのドルフィンサイト。この海に初めて訪れてから、もう12年が経過した。初めて訪れた頃には、まさか10年以上も続けて訪れるほどこの海に魅せられてしまうとは思ってもみなかった。今では、撮影メインというよりも、この海での船上生活を日常生活の一部のように捉えられるようになった。長年通い続けたおかげで、気持ちの上で撮影に関して随分余裕ができたのは間違いない。だから、今では里帰りでもするような気持ちで、毎年6月にはこの海に帰ってきている。手付かずの自然が残るドルフィンサイト。美しいバハマンブルーの浅い海だけが広がる、変わることの無い風景が広がっているように見える。しかし、長く通っていると、様々な変化に気づくことも多くなる。最近特に気になるのは、やはり天候だ。

これは、バハマに限ったことでも無いのだが、今年(2006年)は、例年に比べると、なかなか風が止まなかった。いや、以前は一番安定していると思っていたバハマの6月でさえも、去(2005)年から顕著に不安定に感じられるようになった。

先日、トンガから帰国する途中のオークランドの空港で買ったナショナルジオグラフィックの表紙には、「Killer Hurricanes」の文字とともに、人工衛星から写された巨大な台風の目の写真が目をつけた。2005年は実に27個ものトロピカルストームが発生(そのうちの21個が7月から10月までの4ヶ月間に発生している)し、うち15個がハリケーンまで成長。7個がアメリカ合衆国本土に上陸した。しかも4個がカテゴリー5という最大級のハリケーンだったのだ。これは史上最悪といえる記録だ。カタリナと呼ばれたハリケーンが昨年8月にセントルイスに上陸し、都市を壊滅状態にした災害は今でも皆の記憶に新しいものだと思う。

ハリケーンをくぐり抜けて、
イルカたちに会いに行く

BAHAMAS DOLPHIN SITE



時折イルカたちが密集した群れになって、激しく泳ぎまわる。僕たちはイルカ玉と呼んでいる

美しいバハマアンブルの浅い海
変わることはない風景



イルカたちとの充実した時間を過ごした後、船首に集まって水平線に沈む夕日を眺める

BAHAMAS DOLPHIN SITE



今年は夕日が沈むギリギリまでイルカたちと泳いでいることが多かった

雑誌の特集を見る限りでは、7月中旬以降のカリブ海や南大西洋では、毎週どこかにハリケーンが発生している状態だった。逆に、ハリケーンに当たらない方が不思議、あるいは強運なぐらいの状況になっている。「年々、ハリケーンの数が増えているし、巨大になっている。発生するシーズンも広がっている」と言ったのは、僕たちがチャーターしているドルフィンリーム号キャプテンのスコット。これも地球温暖化の影響なのだろうか。そんな中、昨年は6月頭から7月1週目にかけて4回、今年も6月第1週目から7月第2週目にかけて、計5回のチャータークルーズを開催した。運が良いことに、実は僕たちのチャーターでは、まだ一度もハリケーンなどの影響で海に出れなかった日というのが1日も無いのである。昨年や今年だけではなく、チャー

タークルーズを始めてから、9年間、計34回のクルーズで1日もイルカを探せない日が無かったというのは、自分自身、かなり運に恵まれているなど思っている。

ちなみに、1度のクルーズでイルカと泳げるチャンスがあるのは5日間。今年も5週開催したので、25日間。泳げた時間の程度の違いはあるにしても、そのうち、イルカと泳げなかったのはたったの1日だけだった。

ただ、今年はかなり夕方遅くなってからイルカたちが遊びモードになることも多く、撮影する人にとってめれば、もう少し明るい日差しの下での撮影がしなかったことだろう。

1度のクルーズでイルカと泳げるチャンスがあるのは5日間

何度眺めても、海に沈む太陽の美しさには感動する



クルーズに参加するゲストの約8割が女性だ(上)
今年でクルーズ乗船3年目となる息子。今では海に入るのが楽しくてしょうがない(右上)
今年もキャプテン夫妻の愛娘のホリーもクルーズと一緒に乗船していた(右下)

この海には、定住性のタイセイヨウマダライルカやバンドウイルカたちが生息している。だから、毎年同じイルカたちに出で会うチャンスがある。特に個体の特徴のあるイルカたちは、船上から見ただけでも、識別できるようになった。

水中で一緒に泳いでいても「あ、今のはチャブ、あれはノチヨにケーセルだね。相変わらず元気そうだな。ノチヨはまた新しい子供連れてきているのかな？ そういえば今年はまだシャークベイトを見てないな～、どうしたんだろう」と撮影したり一緒に泳いだりしながら、毎年顔馴染みになったイルカたちの様子を伺うことが、以前より楽しくなってきた。

馴染みの
イルカたちの
撮影をする

BAHAMAS DOLPHIN SITE



泳ぎの苦手だった人もイルカたちと泳いでいるうちに、自然に素潜りも上手になっていく

毎年顔馴染みになったイルカたちの様子伺うことが楽しくなってきた

自分も家族を連れて訪れるせいかもしれないが、イルカに対する撮影のスタンスも以前とは明らかに変わってきている。以前は構図を重視して、より綺麗に、美しい写真を撮りたいと望んでいた。だから、どれがどのイルカとかはあまり気にしていなかった。

しかし、最近はそうした顔馴染みのイルカたちの様子を伺ったり、撮影したりすることの方が増えた。被写体の造形美を無機質に捕らえていたものが、それぞれのイルカの個性を重視した撮影に変わってきたように思う。

どうということかと言うと、固体識別のできるイルカたちというのは、背びれや尾びれが切れていたりして、実は「イルカの造形美」を求める上では正直、あまり好ましい被写体では無かったのだ。だから以前は識別するのが困難な、特徴の無いイルカたちを好んで撮影していることが多かった。それが、今では、そうした特長のある識別可能なイルカたちの写真を撮りためることの方が多くなってきたのだ。

今年はおさわりイルカのケーセル、かなり年配になったオスイルカのチャブ、それに子供を連れて姿を見せてくれたノチョなどを中心に撮影した。ケーセルは、年頃のメスイルカ。昨年くらいから、人との直接的な接触を求めようになったイルカだ。僕たちは、そういうイルカを「おさわりイルカ」と呼んでいる。この「おさわりイルカ」、バハマのドルフィ

ンサイトでは、メスがそのような状況になることが多くて、今まで歴代でシャークベイト、その妹のダービー、ロビン、ケーセルなどが、数年間続けて、代表的な位置にいた。しかし、子供を生んだりしてからは、その行動は影を潜めてしまうことが多い。変わって登場するのが、また年頃前の若いメスイルカだった。

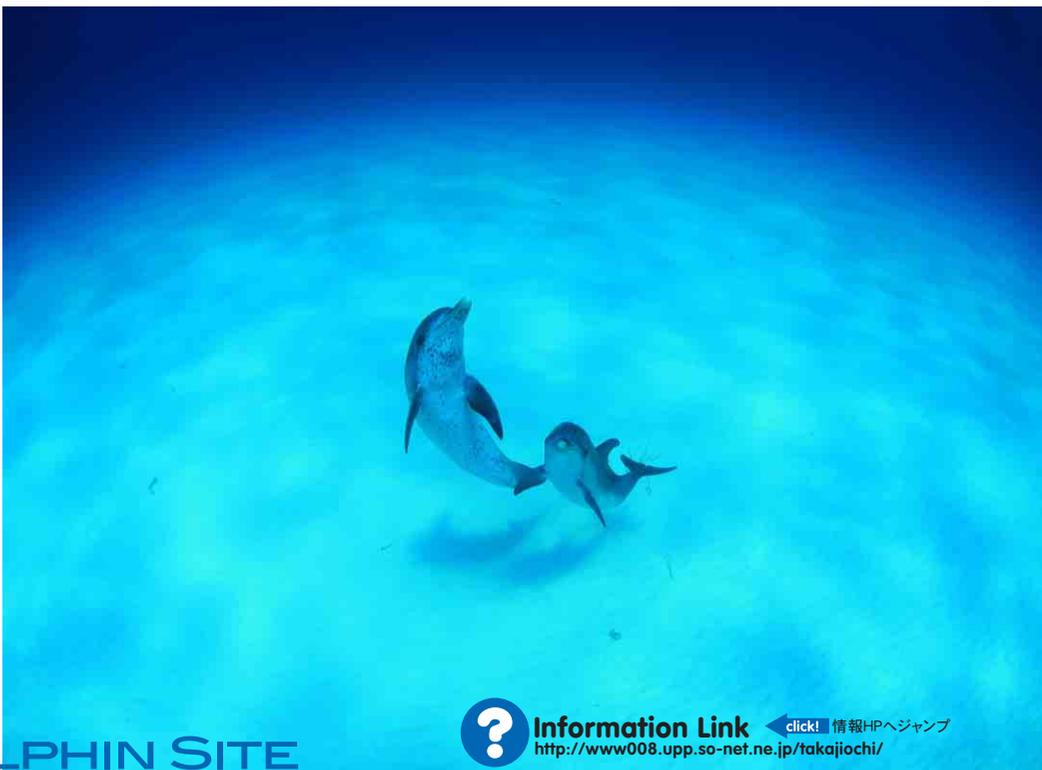
去年の勢いに比べて、今年のケーセルはちょっとそのおさわり度が影を潜めていた感じではあった。それでも、他のイルカたちに比べれば、まだまだ積極的にダイバーたちに接近してきてくれる。ダイバーたちも、皆夢中になって彼女を求めるように泳いでいたのが印象的だった。「もうそろそろ、この子も卒業かな」と思いながら、僕は彼女の撮影を行っていた。



ゴーグルをつけて、イルカと泳ぐ気満々(上)
浮き輪で浮いていると、目の前までイルカたちがやってきてくれた(下)



一眼デジタルカメラ中心の撮影



スローシャッターでイルカたちを撮影。水の流れが線になって、面白い写真に仕上がった



イルカたちの躍動感が感じられる。撮影直後にどんな写真が撮れているか見れるから色々なチャレンジができるのが嬉しい

イルカたちの撮影も、今年から本格的に、一眼デジカメだけの撮影に移行した。昨年までは、銀塩フィルムでの撮影と、デジタルカメラでの撮影を半分ずつ行っていたが、今年はデジタルのみ。スキューバダイビングと違って、長いときには、数時間も一緒に泳ぐことができるイルカたち。以前は36枚撮りのフィルムが無くなる度に、船に戻ってフィルムを換えたり、カメラを代えたりしなければならなかった。当然良いシーンを目の前にして、後ろ髪引かれる思いで引き返していた。

イルカたちは昼間は、捕食モードになっていたりと、睡眠モードになっていたりと、あまり遊びながら

期のバハマでは、日没が8時過ぎなので、日が暮れるまではイルカたちと遊ぶことも多い。しかし、撮影となると今までのフィルム撮影では、「そろそろ撮影は諦めるかな～」と思っていたような暗さでも、デジタルカメラであれば、逆に今までとは違ったイメージの撮影ができて、意外と面白い写真が撮れるようになった。撮影の幅が広がって、多少マンネリ化していたイルカの撮影に、新たな引き出しを用意してもらったような新鮮な気持ちで、楽しみながら撮影できた。

来年もすでに5週間、船をチャーターしている。今回はイルカたちの撮影に関して、こんなことを試してみようとか考えながら、6月が来るのを楽しみにしている。



群れで気に入った写真を撮影するのは難しいが、これは気に入った写真の一つ

ないことが多い。撮影をしたい人にしてみれば、綺麗な太陽光が入り込む、そんな時間帯こそ、イルカの撮影をじっくりしたいところだが、イルカに遭遇しても意外と素通りされてしまうことが多い。彼らが遊びモードになるのは、だいたい、日が傾きかける4時～5時頃から。といっても、この時

●撮影機材紹介

カメラ:キヤノンEOS 5D + 15mm フィッシュアイレンズ
ハウジング:SEA&SEA DX-5D、DIV 5D

デジタルカメラであれば、
今まではイメージの撮影が
できなかった



自然と、イルカ好きの陽気な仲間たちが集まってくる

バハマ、ドルフィンサイトへの行き方

日本から、アメリカなどの航空会社を利用して、フロリダ半島東海岸にあるウエストパームビーチへ。そこからドルフィnkルーズを行っている船をチャーターしてバハマに向かう。現在、チャーターベースでクルーズを行っている船は数隻ある。僕たちが毎年チャーターしているドルフィンドリーム号のみ、チャーターベースと、個人参加の両方のスタイルで、シーズン中はドルフィンクルーズを開催している。

シーズナリティー

4月頃から10月頃までがドルフィンクルーズのシーズンと言われている。冬は風が強くなり、なかなか海に出れなくなる。しかし、本文でも書いたように、年々ハリケーンの発生シーズンが長くなり、頻度も増えたため、特に8, 9月は要注意。

スペシャルチャータークルーズを開催

INTO THE BLUEでは、来年も6月、7月にかけてドルフィンドリーム号を5週間チャーターしてクルーズを開催する。

■ 期間

1週目 2007年6月1日 (金)～6月10日(日)

2週目 2007年6月8日 (金)～6月17日(日)

3週目 2007年6月15日 (金)～6月24日(日)

オフ

4週目 2007年6月29日 (金)～7月8日(日)

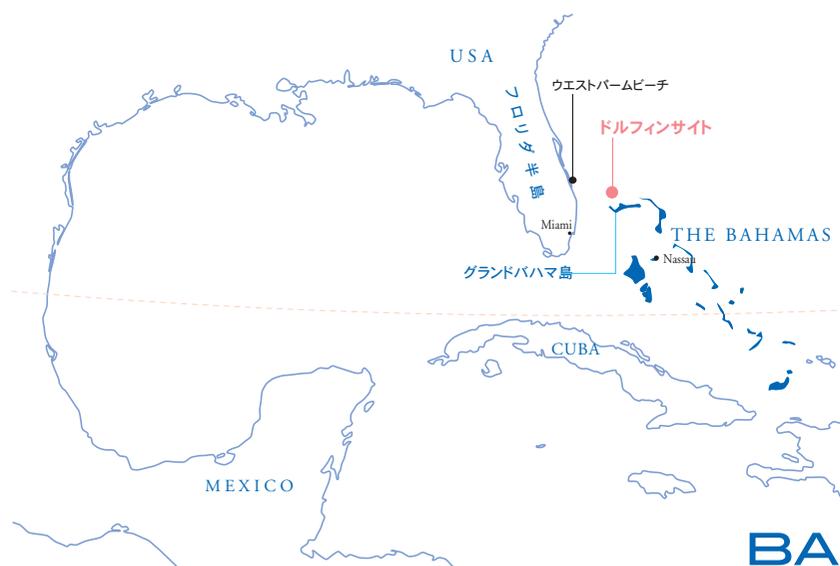
5週目 2007年7月6日 (金)～7月15日(日)

詳しくはINTO THE BLUEまでどうぞ

Link! <http://www.008.upp.so-net.ne.jp/takajiochi/>



(写真上左から時計回りに)まるで絵に描いたような虹が水面から空へと昇っていた/狭い船だからクルーとも楽しく一緒に過ごせる/カードゲームの罰ゲームで顔に炭でいたずら書きされたゲストたち/クルーズが終了し、フロリダの港に戻ってきたところで全員で記念写真を撮影/漁船を改造してドルフィンクルーズ船に改造したドルフィンドリーム号/クルーズは毎回、陽気なメンバーが揃う



BAHAMAS DOLPHIN SITE

www.web-lue.com

Web-lue 2006. Autumn

Information Link <http://www.008.upp.so-net.ne.jp/takajiochi/>